

2022 年度 0 時間目の記録

2022 年 4 月 25 日(月)~5 月 1 日(日)

栽培中の植物

- ジニア
- ハツカダイコン
- コリウス
- センニチコウ
- 四つ葉のクローバー (後から種子をもらった)
- シソ
- マリーゴールド
- バジル
- コスモス
- セントーレア
(宿根ヤグルマギク)
- キュウリ
- トマト
- カボチャ
- トウガラシ
- レタス
- ナス

栽培管理内容

日時	天気	気温 (°C)	管理・植物の様子・指導
		最高 (°C)	
		最低 (°C)	
4/25(月) 8:30	晴れ	気温(21℃)	【管理・植物の様子】 <ul style="list-style-type: none"> ● ハツカダイコンにアブラムシを認め(翅あり・翅なし)、駆除 ● 各自で必要に応じて間引きと灌水 ● ジニア、ナスタチウムは各自で必要に応じて灌水 ● 発芽していないナスタチウム種子を掘り出し(4/9 播種)、外殻にハサミ等で傷をつけ吸水させたうえで再播種(中には発根しているものが 1 個あった) 【写真参照】 ※硬実種子の発芽日数の差は大きい ● コリウス 3 芽発芽 ● クローバー 13 芽発芽 ● キュウリ、ナスに灌水 ● 土の乾き具合を見て、12:30 にカボチャとトウガラシに、17:30 にトマトの一部に灌水
		最高(21℃)	
		最低(17℃)	
4/26(火) 8:00	雨 (濃霧・強風)	気温(19℃)	【管理・植物の様子】 <ul style="list-style-type: none"> ● コリウス 3 芽発芽 ● クローバー 14 芽発芽 ● ジニアは各自で必要に応じて灌水。苗が倒れているものは覆土し安定させた ● ハツカダイコンにアブラムシが増えてきている(要捕殺) ● トマト、セントーレアに灌水 【指導内容】 <ul style="list-style-type: none"> ● ハツカダイコンは急に大きくなり、胚軸の下部が肥大してきている。成長は S 字曲線をとる(緩やかな成長~光合成によ
		最高(30℃)	
		最低(17℃)	

2022 年度 0 時間目の記録

			<p>り炭水化物を生産して大きく成長していく時期に入っている)</p> <p>現状、施肥なしでも本葉の切込みが甘く、肥料分の不足は見られない。肥料は要らない可能性がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 殺虫剤は化学薬品ではなく、植物由来の毒性が少ないものを使用する方が、安全性が高い ● アブラムシについて: 多様な種類(緑、黒、オレンジ等、色も様々)があり、1 年中発生する。寄生する植物が決まっているもの、不特定のものがある ▶生活史…春に翅ありのものが生まれ、胎生単為生殖により雌虫のみが繁殖を繰り返し増殖する。秋には雄虫も生まれ、有性生殖で生まれた卵は越冬する ▶アブラムシとアリの共生関係…アブラムシの排泄物である甘露はアリが好んで舐めに来る。排泄物で周囲がべとべとしてアブラムシが移動しづらくのを防ぐ効果もある 植物にアリがいたら、アブラムシの発生を疑う ● その他の害虫: ▶ハダニ…葉の液を吸って葉緑素を破壊するため、葉が白っぽく見える ▶スリップス(和名アザミウマ)…小さな体長のもが多く、隠れて見つけにくい。クチナシやアガパンサスの花の辺りに付き子房付近に隠れるので、噴霧タイプの薬剤は効かないので、根から吸収するタイプの薬剤を使用する <p>害虫の防除方法:発見したら、増殖する前に濡れティッシュ等で拭き取り駆除する。オルトランなどの殺虫剤は、有毒成分を植物の根が吸い上げ、寄生した虫が植物の液を吸うことで殺傷効果を得るもの。いずれ薬剤耐性がつき、耐性のある虫のみが残ることになるため、薬効が得られにくくなる</p> <p>▶対応①殺虫成分の異なる薬剤を使用する</p> <p style="padding-left: 40px;">②安全性と確実性をとるなら、植物由来で付着性のあるもの(皮膚呼吸している虫を窒息させる)を使用する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 根元にムラなく灌水する方法:ジョロの蓮口を取り、指で水勢を抑えながら根元に灌水する。ポット内壁に水が当たるようにすれば、土をあまりえぐることなく、ウォータースペースが水が回るように行き渡る
--	--	--	--

2022 年度 0 時間目の記録

4/27(水) 8:30	雨のち 曇り	気温(20℃)	<p>【管理・植物の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コリウスの成長の早いものは本葉の展葉が見られる ● クローバー16 芽発芽、灌水 ● ジニアは各自で必要に応じて灌水 ● ハツカダイコンのアブラムシ駆除。各自で必要に応じて灌水 ● レタスは葉が込み合い、蒸れや光合成しづらい状況にあるためスペーシング(よい判断です) ● その他の野菜(キュウリ、トマト、カボチャ、ナス、トウガラシ)についてもスペーシングを行った。アブラムシがついてきているため濡れティッシュや綿棒等を使い、分担して手作業で駆除(アブラムシは特に成長点に多い=よい観察です。ただし、やがて成長点以外にも見られます) <p>【指導内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 葉が密集すると、蒸れてカビが原因の病気の発生要因となる、アブラムシのような害虫を見逃しやすい、などの理由から、葉が重ならないように、フラワーコンテナの中のポットの配置を考慮する(大きい葉が付いているものは端に配置等) ● それぞれの原産地の気候を知ると育てるコツが分かる(トマトの原産地はペルーなので乾燥を好み、乾燥気味に育てると糖度が増す) ● 溢液現象:朝方に葉の先端に水滴がつく現象。吸収し過ぎた水分を、葉の端にある水孔から排出する。根がしっかり張り、水分をよく吸い上げていると言える。若い元気な葉に起こることが多い
		最高(23℃)	
		最低(18℃)	
4/28(木) 8:30	晴れ	気温(18℃)	<p>【管理・植物の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● クローバー16 芽発芽 ● キュウリとトマトに支柱を立て、茎を垂直にした ● 光が万遍なく当たるよう、野菜苗を再度スペーシングする ● 野菜類とマリーゴールドにプロミック各1粒+灌水、ジニアとナスチウムにハイポネックス1000倍希釈で灌水 ● キュウリにうどんこ病が発生しているため、葉表面にカダンセーフを噴霧した(噴霧した翌日、葉に葉害が出ていないか確認する。また、数日後、うどん粉病の白い粉が広がっていないければ、胞子は死んだと考えられる)
		最高(28℃)	
		最低(11℃)	

2022 年度 0 時間目の記録

			<p>【指導内容】</p> <ul style="list-style-type: none">● ジニアのセルから 1 本苗を掘り出し、根の回りを確認。根毛は認めるが、土を巻き込み切れていない。ゴールドエンウィーク明けに鉢上げ予定とする 【写真参照】● ハツカダイコン: 直根がある程度伸びたら、側根が成長。その後、本葉が 2~4 枚になると初生皮層の剥脱が起こり、光合成が盛んになる。水を切らすと肥大が止まってしまうため、水不足にならないよう注意する● マリーゴールドは一番花を摘花する事で次の蕾が複数咲く。花を使用するタイミングを考慮して摘花を実施する● 固形肥料、液体肥料:<ul style="list-style-type: none">▶液体肥料/ハイポネックス…チッソ:リン:カリ 6:10:5▶固形肥料/プロミック スタンダード 小粒…12:12:12▶チッソ、リン、カリの成分の働き:<ul style="list-style-type: none">チッソ… アミノ酸(タンパク質)を生成リン… 成長点部の細胞分裂を促進カリウム…代謝を促し、光合成を促進● 施肥のタイミング(肥料分が不足している状態):<ul style="list-style-type: none">・ 子葉が緑色から黄色に変わってきたとき・ 子葉より第一本葉、第一本葉より第二本葉が大きくなっていくが、後の本葉が小さくなってきたとき● 施肥の注意点:<ul style="list-style-type: none">・ 固形肥料はポットの端に置く。茎に肥料が触れていると、肥料焼けを起こす可能性がある。また、どのポットも同じような位置に置くことで効果が均一になる・ 葉に液肥がかかったまま急激に乾くと、葉に残った肥料分が濃縮され、濃い液肥を与えたことと同じになるため、晴れの日を避ける。もし行った場合は、直射日光が当たらない場所等で管理する● 殺虫剤:<ul style="list-style-type: none">・ 植物由来、別成分の殺虫剤 2 種(カダンセーフ、ロハピ)とオルトランを使用。オルトランは、定植時に使用する(作物により使用時期が決まっている)・ 殺虫剤は予防のためのものではなく、事象が発生してから使用する・ 異なる成分の殺虫剤は、1つを使い切ってから次を使用するのではなく、並行して使用する(薬剤耐性を考慮)・ うどんこ病は発生している箇所に薬剤を直接噴霧する
--	--	--	--

2022 年度 0 時間目の記録

			<p>(葉の表裏どちらにも発生する)。広がっている場合は、発生している葉を切り取り、廃棄する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤は施錠できる所で保管する ● 支柱: <ul style="list-style-type: none"> ・ 茎が曲がっていると、曲がった部分の細胞にも養分が使われる。養分の無駄を減らすため、茎はなるべく直線的な形状が望ましいので、茎が曲がる前に支柱を立てる ・ 植物の草姿としては、葉柄が45度、葉が水平になるのが望ましい(上部から太陽光が十分あたる時の姿) ● 天窓は自動制御中だが、高温時に確実に開いているかを確認し、閉まっていれば手動で操作する(熱を逃がす) ● 温室内でも場所により太陽光の入り具合が異なり、置き場所の違いで生育ムラが起こる。植物の生育に1万ルクス以上は必要。照度を測定するアプリ(light meter)等を活用し、苗の置き場所を考える
4/29(金) 8:00	雨 (強風)	気温(18℃)	【管理・植物の様子】 <ul style="list-style-type: none"> ● ハツカダイコンは、昨日の灌水の影響か、肥大が進んでいる。 ● 野菜類(ハツカダイコン、キュウリ、トマト、カボチャ、ナス、トウガラシ、レタス)のアブラムシを濡れティッシュ、綿棒で駆除 ● トウガラシとトマトの一部は土が乾き気味だが、昼夕の状態を見て判断する→12:30、17:30に確認。本日の灌水は不要と判断した ● 17:30に気温12℃。日中も雨風で気温があまり上昇していない。明朝にかけて10℃を下回る可能性も考慮し、出入り口の戸を完全に閉めた(側窓は自動で閉まっている)
		最高 (28.5℃)	
		最低(17℃)	
4/30(土) 8:30	晴れ	気温(18℃)	【管理・植物の様子】 <ul style="list-style-type: none"> ● クローバーに灌水 ● ハツカダイコンの一部に灌水 ● レタス(サンチュ)の葉が広がっているため、再度スペーシング ● ピーマン(京みどり)、レタス(レッドサラダボール)に灌水 ● マリーゴールド(ポナンザオレンジ)の一番花を摘花 ● 18:00 トマトの葉が萎れているため、灌水
		最高(19℃)	
		最低(11℃)	
5/1(日) :	雨のち 晴れ	気温(15℃)	【管理・植物の様子】 <ul style="list-style-type: none"> ● キュウリ、カボチャ、セントーレアに灌水 ● すべての苗の害虫の有無を確認し、駆除。レタスとナスの葉
		最高(24℃)	
		最低(13℃)	

2022 年度 0 時間目の記録

			<p>裏にアブラムシが多く見られた</p> <ul style="list-style-type: none">● ハツカダイコンの肥大は進んでいる。葉に溢液現象を認めた。 【写真参照】● ハツカダイコンの 8 つのプランターのうち 5 つから新たな発芽を認める。1 つのプランターに 0~7 芽(計 23 芽)● 13:30 レタス、ナス、トウガラシ(京みどり以外)に灌水
--	--	--	---

(写真は次のページ)

2022 年度 0 時間目の記録

写真



ジニア 左 4/25(本葉 3.4mm) 右 5/1(5.5mm)
右のように本葉が重なってきたら鉢上げ適期



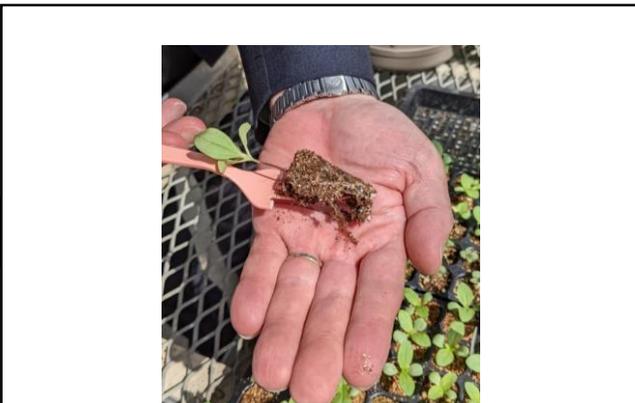
左 4/25 掘り出したナスチウム(発根している)
右 4/30 発芽を確認



4/26 サンチュの葉裏に数種のアブラムシ



4/27 コリウス 本葉が展葉



4/28 掘り出して根回りを確認したジニア
もう少し側根が伸びて、白い根で培養土が覆われて崩れなくなった頃が鉢上げ目安



5/1 ハツカダイコン肥大の様子と溢液現象